

事業の概要

道総研では、今年度から新たな5年間の第4期中期計画（令和7～11年度）が始動しました。この第4期中期計画では、急速に進む人口減少や地球温暖化を背景に、①「食」、②「グリーン」、③「デジタル」を研究開発の重点領域に位置づけ（下記【注】参照）、さらに戦略的に取り組む研究分野として「人口減少社会への対応」（重点領域①・③）、「気候変動の緩和」（重点領域②）、「気候変動への適応」（重点領域①・②）を設定し、研究を推進することとしています。

森林研究本部では、上記の研究開発の重点領域や戦略的研究分野に加え、道の「森林づくり基本計画」（令和4年3月）における重点取組やその指標、「北海道森林吸収源対策推進計画」（令和4年3月、令和7年3月）における森林吸収量の目標やその関連指標などを踏まえ、第4期中期計画において「森林資源の循環利用による林業及び木材産業の健全な発展」及び「森林の多面的機能の持続的な発揮」を研究推進の2本柱に位置づけて、ゼロカーボン北海道やスマート林業の推進に向けた研究をはじめ、以下に掲げる研究推進項目に則した研究を推進することとしています。

（ウ）森林に関する研究推進項目

- a 森林資源の循環利用による林業及び木材産業の健全な発展
 - (a) 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を推進する林業技術及び木材産業技術の開発
 - ・ 炭素吸収量・貯蔵量の確保に向けた森林の整備と道産木材の利用促進のための研究開発②
 - (b) 将来を見据えた林業技術の開発
 - ・ 森林資源の適切な管理とスマート林業による森林施業や生産・流通の効率化のための研究開発①③
 - (c) 木材産業の競争力を高める道産木材の利用技術の開発
 - ・ 木材産業の技術力向上のための研究開発
- b 森林の多面的機能の持続的な発揮
 - ・ 森林の多面的機能発揮と有用樹木・特用林産物の活用のための研究開発

【注】 下線は研究開発の重点領域（下記の①～③）に対応する項目。

- ①「食」：将来の気候変動や労働力不足に適應できる食関連産業等の構築
- ②「グリーン」：地域のエネルギー及び資源の活用による環境調和型社会の形成
- ③「デジタル」：デジタル技術の活用による産業振興と地域活性化

林産試験場においては、この第4期中期計画に基づき、道内の林業・木材産業等の振興及び道民生活の向上に向けた様々な研究に取り組むとともに、これまでの研究で得られた成果について、研究成果発表会の開催やWeb版「林産試だより」などによる情報の発信をはじめ、各種イベントにも出展して積極的に普及を図りました。また、企業等への技術支援として、林産試験場の施設・設備を活用した依頼試験や設備使用をはじめ、技術相談、技術指導、講師等派遣などに取り組みました。